

ピックアップ
高知大学生

全国唯一
「学生よさこい」の
場をつくる
土佐学生よさこい大会実行委員会

Contents

【研究のススメ!】
大学発のベンチャー企業で
膵臓がんの早期発見、
治療薬開発に挑む

【研究のススメ!】
大雨のメカニズムを
解き明かしたい

【HELLO!SENPAI】
コンテンポラリーダンサー
創立75周年記念式典総合プロデューサー

【特集】
「スポーツ・芸術文化共創専攻」誕生

Kochi University TOPICS

医学部の谷内恵介准教授は、早期発見が難しいことで知られる膵臓がんが専門。その早期発見と治療法の確立に向けて、ベンチャー企業を設立し、5年後生存率を60%に上げることが目指して研究に取り組んでいます。

膵臓がんの5年後生存率を現状の約10%から60%へ!

「膵臓がんは症状があまり現れないので、早期発見するのが難しい。周りに広がりやすく、転移もしやすいことから、手術後の再発率が高いのも問題です。がんのなかでも、予後(回復の見込み)が最も悪いです」と膵臓がんの診断・治療に長年取り組んできた谷内先生は話します。

研究成果の実用化に向けて、2022年にベンチャー企業のサルスサイエンス株式



高知県発ベンチャーファンドによる投資について記者会見を実施

サルスサイエンス株式会社

※「サルス」とは、古代ローマの健康の神様のこと。



簡単な血液検査により、膵臓がんの早期発見を

谷内先生の研究のコンセプトを形にしたサルスサイエンス。その事業展開は診断、治療、研究用のマウス販売の3本柱です。

まずは診断について、がんを広げないためには早期発見が重要ということから、膵臓がんの腫瘍マーカーになり得る物質を探してきました。腫瘍マーカーとは、がん細胞が作り出す特殊な物質のこと。血液中でその物質が異常な増え方をしていた場合、がんが発生していると診断できます。

「膵臓がんの転移や浸潤(がんが周囲に広がっていく現象)に関わるたんぱく質を調べているうちに、がんの細胞膜からはがれて、血液中に流れ出す物質を発見しました。膵臓がんのさまざまなステージのなかでも、特に早期のうちには血液中で増える物質です。この物質につく抗体を作り、抗体検査キットに利用します」

「検査というのは、できるだけ簡単なほうがいい。たとえば、昔の検便はあまり気が進まなかったでしょう。しかし、いまでは検査キットが非常に良くなり、便の表面をちよつとこすって調べるだけで、腸内の異状を検出できます。新しい抗体検査キットの場合、血液を使うだけなので、患者さんの負担は小さく、検査として利用しやすいと思います」

高知大学 研究のススメ!

高知大学の研究の「今」をご紹介します。

vol.9

大学発のベンチャー企業で膵臓がんの早期発見、治療薬開発に挑む

会社を設立。現在、膵臓がんの5年後生存率は9%程度ですが、新たな診断方法によって20%に、さらに治療方法を確立して60%に向上させることを目指しています。

「研究はこれまで通りに高知大学で行い、その成果をサルスサイエンスが社会で有効活用します。大学で生み出した技術で特許を取得し、実用化に向けた研究を進めていきます。すでに製薬会社など、医療系の企業6社と提携し、具体的に動き出しています」

谷内先生がベンチャーを意識しはじめたのは30代半ば。高知をいったん離れて、東京大学医学部研究所で学んでいるときのことでした。「ちょうど、大学発のベンチャーが脚光を浴びるようになったところで、東京大学にも起業を目指す研究者がいっぱいいました。彼らはみな、こういって研究を社会で実現したい、という明確なコンセプトを持っていました。では、自分の場合は何だろうか?。しかし、当時は考えてもまだわからなかったんです」

膵臓がんの研究・診断・治療全方位で行う事業展開

研究開発 膵臓がんの疾患モデルマウス	診断 早期診断キット 抗癌剤の効果判定キット	新規治療 核酸製剤開発 抗癌剤治療
-----------------------	------------------------------	-------------------------

各事業で提携先企業と協業

診断ステージ達成で
5年生存率
20%に向上

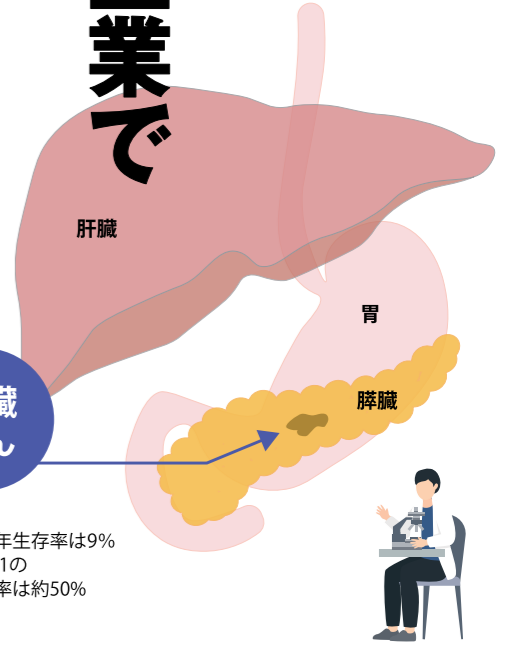
治療ステージ達成で
5年生存率
60%に向上

がんの広がりを防いで、難病から治る病気を

治療については、2種類の新しい治療薬の確立を目指しています。ひとつは、既存の薬を活用するもので、マウスの実験によって膵臓がんの周りへの広がりを抑制できることを確認済み。患者さんにも有効なのかどうか、これから治療を行って有効性や安全性を確かめます。

もうひとつはまったく新しい薬で、遺伝子に働きかける「核酸医薬」というタイプ。がん細胞のなかに入り込み、たんぱく質を作るリボ核酸(RNA)を壊すことにより、がん細胞が周りに広がるのを抑えます。

「これまでに開発されてきた薬は、がん細胞が分裂しないようにする薬。一方、サルスサイエンスが取り組んでいるのは、がん細胞が広がらないようにする薬です」



全体の5年生存率は9%
ステージ1の5年生存率は約50%

東京大学で2年間の研鑽を積んだ谷内先生は、自分ならではの研究の意味を探するため、アメリカの大学に留学しました。そこで5年間にわたって、じつくりと「コンセプト探し」に努めます。

「アメリカの研究者たちを観察するうちに、がんを小さくする研究を中心に行っていると感じました。それなら彼らとは

違ってがんが広がらないようにするにはどうすればいいか、ということの研究のコンセプトにしようと考えました。非常に重要なテーマのはずですが、誰も取り組んでいない。これはチャンスだと思いました」と、ターニングポイントのひとつとなった留学時代を振り返る谷内先生。以来、一貫して、同じコンセプトで研究を続けてきました。

医学部 消化器内科学講座
医療学系 臨床医学部門 准教授

谷内 恵介

高知県出身。高知医科大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了、博士(医学)。高知医科大学医学部附属病院、土佐市民病院、近森病院、東京大学医学部研究所、University of Nebraska Medical Centerなどを経て高知大学医学部へ。「研究者はすごく勉強しなきゃいけない。エネルギーは有限。研究者を目指すのなら、中学高校では勉強し過ぎないほうがいいかもかもしれません」



既存の薬と私たちが目指す新薬を組み合わせてやることによって、相乗効果が生まれ、思った以上に効くことも予測されます」と谷内先生は大いに期待しています。

サルスサイエンスの3本目の柱が、患者さんの膵臓がんと同じ症状を持つ研究用のマウスの販売です。「オルガノイド培養」という新しい再生医療の手法により、短期間で大量のマウスを作ること成功しました。研究者に提供して、実験に役立ててもらいたいと考えています」と研究用の

マウス開発・販売の意義を話す谷内先生。すでに、治療薬開発メーカーへの販売が見込まれています。

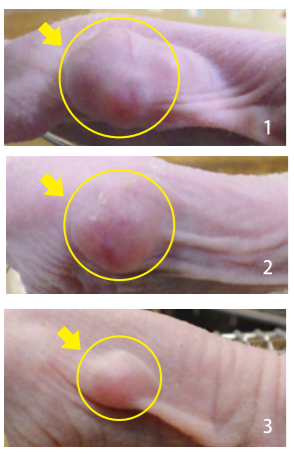
どうすれば、膵臓がんが広がらないで済むのか。谷内先生の研究のコンセプトを形にするサルスサイエンス。「膵臓がんは治りにくいという情報を皆さん持っており、診断されたときには大きく失望します。がんが小さなうちに発見し、広がらないように薬で抑える。これからも研究を続け、患者さんの希望の光を大きくしたいと考えています」と力強く語ります。

新しい治療薬の実験

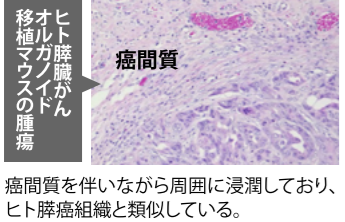
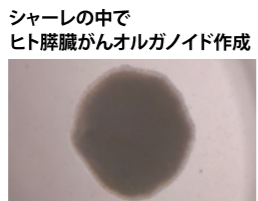
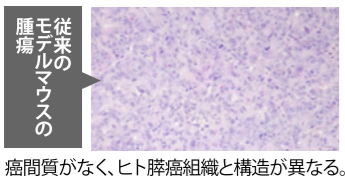
サルスサイエンスの膵臓がん疾患モデルマウスにおける8週目の腫瘍

1. 投薬なし
2. ゲムシタピン・ナブパクリタキセル療法(GnP療法)
3. GnP療法に新薬を追加

サルスサイエンス株式会社の膵臓がん疾患モデルマウスを用いて、現在の治療法であるGnP療法と膵臓がんへの適応拡大を目指している新薬を併用した治療法の薬効の比較を行った。GnP療法へ新薬を追加することにより、マウス背部皮下に形成された腫瘍を小さくすることを確認できた。

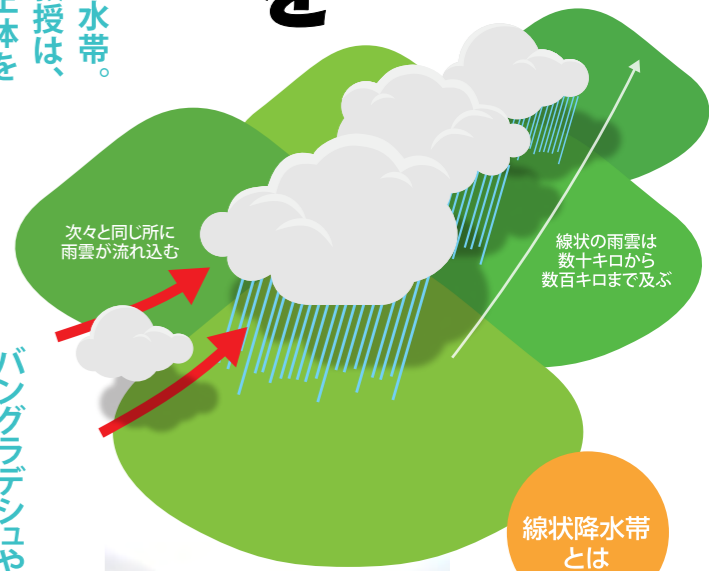


オルガノイド培養によるマウスの開発



大雨のメカニズムを 解き明かしたい

近年、毎年のように大きな災害を発生させる線状降水帯。国内外で大雨の研究を行う理工学部の村田文絵准教授は、大学が所有する気象レーダーなどを駆使し、その正体を解き明かそうとしています。



Bangladesh やインドの豪雨地域にも足を運んで研究

線状降水帯などの大雨について、長年研究している村田先生。高知大学に着任以前から取り組み、いまも研究を続けているのが、世界屈指の豪雨地帯であるバングラ



バングラデシュに設置した船舶レーダー。通常の気象レーダーが1台数千万とくらべて、数百万。通常は横回転で使用するが、縦に回転させることで、雨雲の断面の計測が可能。



バングラデシュの上空から撮影。雨が降り田畑が、湖のように水に浸かっている様子。

デシュの気象現象です。「大学院生のときはインドネシアのスマトラ島に何度も行き、気象観測をしていました。大学院修了後、京都大学防災研究所の研究員になり、バングラデシュで調査をするようになりました。非常に雨が多くて、大雨の研究をするには絶好の地域なんです」

バングラデシュはガンジス川をはじめとする3大川が集まる典型的なデルタ(三角洲)地帯。かつてはサイクロンが1回襲来すると数10万人単位の犠牲者を出していました。いまはサイクロンシエーター(サイクロン来襲時の避難所の整備などにより、人的被害をかなり抑えられるようになったそうです)。

気象観測の手法として古くから知られ、村田先生もよく利用するのが、気温や湿度、風などを測定するセンサーを付けた風船を飛ばすラジオゾンデ観測です。風船が上がっていく際にデータを収集し、電波で地上に送信する仕組み。地上から風船が割れる約20キロ上空まで大気の詳細構造(垂直方向の構造)をくわしく知ることが出来ます。「100年以上前から行われている観測方法ですが、高度ごとの大気の詳細の違いを細かく測れるのは、

昔から線状降水帯が多く発生している高知県

地球温暖化が叫ばれはじめた1990年代、じつは地球は寒冷化しているという逆の説も唱えられていました。当時、村田先生は大学生。「どちらの側の研究者も、いろいろな根拠をもとに発表していました。これはどういふことだろうと、興味をそそられて、学部生のときには地球環境を学んでいました。大学院では気象の道に進みました」

気象を学ぶうちに、村田先生が特に強い関心を持ったのが大雨です。近年の大雨といえは、長い土砂降りが続いて土砂災害などを引き起こす線状降水帯がよく話題にのぼります。近ごろ急に増えてきたような

イメージもありますが、以前は呼び方がなかっただけで、昔からある現象なのだとか。大雨を降らす積乱雲は、寿命がそれほど長くはなく、多くの場合、1時間もすれば雨が止むのですが――。

「積乱雲のなかには強い上昇流があり、水蒸気を冷やして雨粒にします。雨が降ると打ち水のような効果で、地面近くの空気が冷えます。大気の状態が不安定なとき、その冷たくて重い空気が周囲の温かくて軽い空気が持ち上げられ、次々と同じところに新しい積乱雲が流れ込む。線状降水帯はこうして発生します」

高知県の過去の気象データを確認すると、以前から線状降水帯が多いことが明らかだそうです。



朝倉キャンパスの校舎の屋上。学生と一緒にラジオゾンデを飛ばす間際のカウントダウン中。

いまでもラジオゾンデ観測だけなんです」と古典的な観測方法のメリットを説きます。

村田先生はバングラデシュとの国境近くにある、インドのチェラプンジという都市にも注目しています。「ここは世界で最も雨の多い地域で、多いときには年間2万6000ミリ、ひと月に9000ミリもの雨が降りました。雨が降るメカニズムは世界共通なので、チェラプンジの雨について理解できれば、いろいろな国や地域での豪雨発生の解明に役立つはず。そのためにはデータをいっぱい取らなければいけないと、現地に向いて気象観測を行っています」

高知大学所有のレーダーで線状降水帯をキャッチ!

世界のなかでのバングラデシュやチェラプンジのように、日本の豪雨地域としてよく知られているのが高知県です。高知市の年間降水量の平均値は2666ミリで、県庁所在地ではトップ。「雨が多いということから、

もともと高知の気象には興味がありました」と話す村田先生は2007年、高知大学に着任。以来、気象観測を積極的に行ってきました。

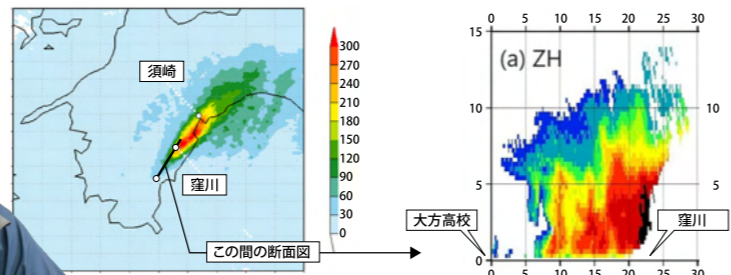
観測の際に活躍するのが、全国の大学でも珍しく、高知大学が独自に所有している気象レーダーです。雲の中にある雪やあられ、みぞれなどの粒子を推定できる最新型。朝倉キャンパスと物部キャンパスに加えて、東は安芸市から西は土佐清水まで、合わせて6基の気象レーダーを駆使して気象観測を行っています。

この気象レーダーによって、2022年7月5日、高知県に発生した線状降水帯をくわしく観測できました。「高知県西部にある大方高校に設置しているレーダーで、積乱雲の塊を立体的にはっきりとらえました。線状降水帯が発生したのは、レーダーから20キロしか離れていない地域。深夜、大学からレーダーを操作し、大雨が降っている地域を狙って観測しました。なかなか得られない貴重な観測結果だと思えます」と地域の大学だからこそできた調査内容を明かします。気象レーダーの観測データに関しては、気象庁やJAXA

(宇宙航空研究開発機構、欧米の専門機関など)からも入手して研究に役立てています。バングラデシュなどで経験を積んだラジオゾンデ観測もたびたび実施。「線状降水帯の発生が予測されたとき、気象庁からの観測の依頼を受けて、風船を上げるようにしています。雨の多い高知は、気象の研究をするにはとてもいいところですよ」と村田先生。ラジオゾンデ観測は研究室の学生たちとともに、実習でも年2〜3回ほど風船を飛ばしているとのこと。

「気象はわからないことが多いから面白い。こういった雲があるときに大雨が降るのが、雪やあられの粒子は雨の強さどう関連しているのか。こうしたまだわかっていない気象現象について知りたい、解明できればいいなと思っています」と村田先生は意気込みを語ります。

2022年7月に発生した線状降水帯



▲2022年7月4日21時から5日1時までの4時間積算雨量(mm)

高知大学のレーダーで観測したデータ。▲レーダーのある大方高校から四万十町へ行くにつれて大雨になっている



高知県内に6基ある高知大学のレーダー



理工学部 地球環境防災学科
自然科学系理工学部門 准教授

村田 文絵

京都府出身。神戸大学大学院自然科学研究科地球環境科学専攻、博士(理学)。京都大学防災研究所、総合地球環境学研究所を経て、2007年に高知大学へ。「高知は大雨が多くても、インフラ整備などによって災害は少ない。研究者にとって、安全に研究しやすい地域ですね」

活躍する高知大学の先輩に
会いにいきました!

HELLO! SENPAI

Vol.5

理学部卒
コンテンポラリーダンサー
振付、演出家
穴井 豪 さん

国内外の舞台や
ミュージカル、
コンサートで活躍!



(上) 学生時代の穴井さん
(下) 第33回国民文化祭・おおい2018の
オープニングステージ総合演出・振り付けを担当

あ い ご
穴井 豪 さん

大分県出身。2003年、高知大学理学部卒業。大学在学中にダンスをはじめ、卒業後に上京。「Leni-Basso」のメンバーとして国内外での公演、ダンサーとしてミュージカル「ロミオとジュリエット」、ダンサー及び振付師として石井竜也コンサート、「スーパー歌舞伎IIワンピース」などに参加。

穴井豪さんのオフィシャルウェブサイト
インスタグラムはこちらから



はじめて踊ったとき 「ダンサーになる」と決意

穴井豪さんはオフィシャル・ウェブサイトで「ダンスアーティスト、コンテンポラリーダンサー、振付、演出家ときどき俳優」と自己紹介。これまで数々のミュージカルや舞台、コンサートなどに参加してきました。11月3日開催の「高知大学創立75周年記念式典」の総合プロデューサーにも就任しています。

記念式典は高知大学だけで完結しないで、高知県全体の地域や人とつながることが重要だと考えています。留学生も多いので、言葉がなくてもわかる、よさこいをはじめとする非言語系コミュニケーションも欠かせません。これらの要素を一つにまとめられないかと、いまプランを練っているところです。

穴井さんは大分県出身。高校生のとき、理系の大学に進学し、卒業後は研究者

石井竜也さんのコンサートや 「スーパー歌舞伎」を振り付け

「ダンスを始めたその日から、もうダンスしか頭になかった」という穴井さん。就職活動には目もくれず、卒業後は東京へ。アルバイトをしながらダンススタジオに通い、実力を蓄え、チャンス待つ日々を過ごします。

東京に行っても当てはなかったんですが、なぜか自信だけはありました。プロのダンサーになるには、体を変えなければいけない。ダンスの練習に並行し、柔軟性の向上などを目指してトレーニングに励み、2年ほどで体が明らかに変わりました。やがて、お金を払って参加する発表会や、ギャラントイが発生するプロの舞台などに参加するようになりました。

上京して3年目の2005年、穴井さんは大きなチャレンジに出ます。当時の日本を代表するコンテンポラリーダンスグループ「Leni-Basso」のオーディションにエントリー。見事に合格します。

コンテンポラリーダンスとは、ジャンルや技術に関係なく、表現を追求するダンスです。「Leni-Basso」は日本人の体型を活かした表現方法が高く評価されていました。ほくも17カ国で舞台に立ち、自分が日本人であることの意味を理解できて良かったと思います。「Leni-Basso」の活動を5年ほどで終えたのち、次はエンターテイメントの世界で勝負したいと、30歳代前半でフリーランスになりました。



レッスンの様子(振付リハーサル)

なりたいたいという目標を持っていました。ダンスに興味はあったものの、部活などで踊っていたわけはありません。そうした穴井さんの未来は、高知大学に入学後、想像できなかった方向へと急転換します。

入学早々、ダンスサークルの新人歓迎パフォーマンスを見て、すごくカッコいいなと思いました。入会してはじめて踊ったときは本当に楽しく、ステップを踏みながら笑いがこみあげてきたほど。そのとき、ダンスを仕事にすると決めました。サークルで踊るヒップホップ系以外も学ぼうと、バレエやジャズダンスの教室にも通うようになりました。

もちろん、よさこい祭りにも参加しました。あのトランス状態になるという感覚はなかなか味わえない。いまの舞台の仕事も構造は同じです。厳しい練習を続け、当日を迎えて披露し、その舞台がなくなる。よさこい祭りはダンサーの人生そのものだと思います。

2012年、大きなステップアップとなる仕事をえました。人気バンド、米米CLUBのボーカル、石井竜也さんのソロ活動のダンサーに抜擢されたのです。以降も仕事に恵まれ、着実に実績を積み上げていきます。

石井竜也さんの仕事もオーディションでした。石井さんの世界はアーティストックな部分が大きく、ぼくがコンテンポラリーダンスをやっていたことで選ばれたのだと思います。ダンサーとしての参加でしたが、あとで振り付けも担当するようになりました。ようやくエンターテイメントの世界で自分を表現できるようになり、とても楽しかったですね。

毎日、3時間トレーニング いまがいちばん体が動く!

穴井さんの仕事の幅はさらに広がっています。2018年には日本最大の文化の祭典「第33回国民文化祭・おおい2018」オープニングステージ総合演出・振り付けを担当。新型コロナウイルス流行期の2021年には、ソロ公演をオンライン配信しました。ダンスの世界で生き抜いて20年、穴井さんの原動力は何なのでしょう。

はじめて大学のダンスサークルの練習に参加したとき、あの本当に楽しかった感覚がまだ自分のなかに残っています。その気持ちがいまもなお、自分を動かしているのかもしれない。ダンスには毎日向き合い、1日3時間はトレーニングしています。じつは、いまが人生でいちばん体が動くんです。

ダンサーとして50代までは十分いけるのではないかと思っています。

自分の好きな道を見つけ、真っすぐに進んできた穴井さん。高知大学の学生や、受験前の高校生にメッセージをいただきました。何事も目標を決めて必死で頑張ろうとすると、集中力が続かないこともあります。もともと柔軟に考えて、その日の自分のベストを尽くしてはどうでしょう。自分のなかに磨きたい大事なものがあつたら、常に磨き続ける。ただし、柔らかい気持ちは忘れない。そうすれば道は開けると信じています。



第33回国民文化祭・おおい2018の出演者と記念撮影

学生さんへ
「学んでいること」と
「将来の夢や今後の目標」を
聞いてみました。

私は美術で地域の活性化を図るために、専門である日本画と、地域や日本の問題を取り上げた社会学を学んでいます。将来は大学院で学んだことを活かし、地域に貢献したいです。

西岡 光 にしおか ひかり



現在は美術、地域に関わることを幅広く学んでいます。目標は絵本を制作し、いろんな人を楽しんでもらうことです。地域貢献、ひいては夢は大きく、人類貢献できるよう頑張ります。

上岡 亜未 かみおか あみ



現在はスポーツ運動学に関する専門的な知識を深められるように頑張っています。さらに高知県の地域課題に対してどういった形で解決、貢献しているのか専門領域の先生のみならず、多領域の先生方から指導していただいています。

岡村 太洋 おかむら たいよう



人々の感動を生み出す「音楽」の力について、作曲、地域における文化芸術創造を通して研究し、地域の、やがては世界共通の課題解決のためのロールモデルを提唱、構築しなければならぬと考えています。

中山 裕千 なかやま ひろかず



音美体プラス地域の専攻が 新しい可能性を生む

Q. 本専攻の特徴や強みは何でしょうか？

- 幸 / 我々の専攻の特徴としてまず挙げたいのが、「音(楽)美(術)体(育)」でまとまっていることです。このような形の専攻は全国でも珍しい。しかも地域社会分野という異なる領域が必須というのも、少子高齢化の進む課題先進県の高知だからこそできる学びになるのではないのでしょうか。
- 森田 / 私は地域社会分野の教員として個人・家族や地域の問題、特に日本の働き方や暮らしの課題をジェンダーの視点から、大学院生と一緒に勉強しています。社会学というレンズを通して、大学院生が専門領域を見る手伝いができればと思っています。
- 野角 / セミナールの中間発表ではいろいろな分野の先生が来て、ディスカッションを行いました。違う分野の院生や教員で意見交換できたのは、初めてのことでないでしょうか。
- 梶原 / 学問領域の壁が低いのも、この専攻の特徴ですよ。元来、研究室で完結しようとするものですが、ここは必要ならば違う領域の先生に院生をつなげることが可能です。私のように実技指導が主な教員にとっては、非常にありがたい仕組みです(笑)。研究の興行きも広がると思います。



芸術分野(管楽器・トロンボーン)
梶原 彰人 准教授



芸術分野(日本画)
野角 孝一 准教授



スポーツ健康分野(体力科学)
幸 篤武 准教授



地域社会分野(社会学)
森田 美佐 教授

Q. ここで学ぶ学生にはどのように成長してほしいですか？

- 野角 / 院生の皆さんには、専攻の2年間で基礎を築いてほしい。修了すれば実技の向上や研究が終わるわけではありません。続けることは、本当に難しい。だからこそ地域社会分野への関心も含めて、専門分野に向き合い続ける「姿勢」を身につけてほしいです。
- 梶原 / 県内では生涯学習や生涯教育のイベントや文化教室が行われていますが、その多くが入門的なものです。もう少し踏み込んで、より社会的な視点を持った内容で企画できる人が専攻から育っていったら、高知はもっと面白くなるのではないかと思います。
- 幸 / 大学院は研究の場です。自分の研究が社会のどの位置にいるのか明確に説明できるように、院生たちを指導していきたいと思っています。また、エビデンスベースド(科学的根拠)を重視する姿勢を身につけてほしいと願っています。
- 森田 / 生活者にとっての豊かさを発信する地域のリーダーになってほしい。スポーツも音楽も美術も、私たち人間が生きていけばいくほど、その大切さや思いは増すものです。地域社会分野を学ぶことで、それを伝えられる人になってほしいと考えています。



今までの院生たちの研究の進捗や本格的に研究を進めていく上での検討事項などを発表した「スポーツ文化共創ゼミナール」中間発表の様子

スポーツ・芸術文化共創専攻 進学者説明会

第2回

11月30日(土)
時間/10:00~12:00
会場/教育学部1号館
11番教室

事前予約制です。
予約申込はこちら▶



支え地域を変えることができる大学を標榜する、本学ならではの専攻です。さらにカリキュラムの軸として、専門領域と地域社会分野を統合したゼミナール科目を設けました。主体的に地域社会の課題解決を試みるため、事例研究から始まり、プロジェクトを企画して実践。結果の考察まで2年間を通して行います。先日、専攻に関わる教員に院生が中間発表をし、ディスカッションも行いました。さまざまな専門領域の院生や教員が集まった議論は私にとっても新鮮な体験で、新しい発想が生まれる場になりました。

ひとつのことを極めるのはとても大事なことです。しかし近視眼的であってはなりません。文化の担い手にとって先の見通せない現代社会に対応できるような複眼的なものを見方を養うことも必要になります。正しさの指標が存在しない中で、如何に考え、如何に普遍的な価値を見極めることができるかが鍵と言えるでしょう。今年度、社会人も含めて5人がこの専攻に入学しました。大学院修了後も学びは続くでしょう。しかし、努力と考える力があれば道を切り拓いていきます。専門性の異なる社会人と学生と一緒に探求する本専攻での2年間を、将来の糧にしてほしいと期待しています。



特集

2024年4月、高知大学大学院に新たに誕生した「スポーツ・芸術文化共創専攻」を紹介します。

大学院に探求の新しい息吹 スポーツ・芸術文化共創専攻



スポーツ・芸術文化共創専攻長
人文社会科学系 教育学部 教授

前田 克治

大阪音楽大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。武満徹作曲賞、A.T.ツエムリンスキー作曲にて第1位受賞。今春、自作自演ピアノ作品集CD「イン・ピトゥーン」(コジマ録音)リリース。「時間があれば全国の美術館に足を運びます。私の作曲も、特にモンドリアンやマーク・ロスコ等、近現代美術から多くの影響を受けています」

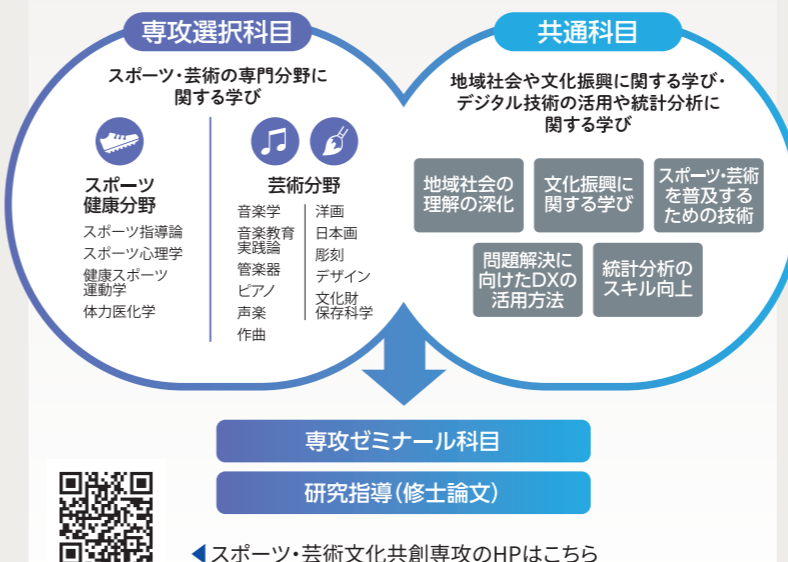


銘板除幕の様子

専門性を追求し
文化の力を地域に
届ける人材を目指して

スポーツ・芸術文化共創専攻は、高知大学に7つある修士課程の専攻の一つです。スポーツや芸術に関する人材育成の期待と、大学院進学を考える学生のニーズに応えるため設置されました。本学で体育や美術、音楽を学んだ学生のみならず県内外の大学等出身者の進学先として、また社会人のリスキリングの場としても大きな意味があります。この専攻の特徴はまず、スポーツと芸術に特化しているということ。スポーツ・健康分野、芸術

スポーツ・芸術の専門分野や地域社会・文化振興に関する知識や方法論を学び研究やディスカッションを通じてさらに高度な理解を深めます。



分野に関して、第一線で活躍している経験豊富な教員のもと、院生は自分の専門領域を学びます。そしてもうひとつの特徴が「共創」の名の通り、技能や知識を極めるだけでなく、培った専門性を地域の課題解決や文化振興に資することができる人材の育成を目的としていること。そのため院生たちは、共通科目として、法律、経済、ジェンダー問題、デジタル技術などの地域社会分野を学びます。地域文化振興に関する授業もあり、行政機関や文化施設、NPO団体の方が講義をしてくださるほか、現地に行つて探求を深めることも予定しています。SRU(Super Regional University)・地域を

高知大学と本山町の連携事業に関する協定の調印式が執り行われました

高知大学と本山町は、長きにわたり吉野川の支流、汗見川流域をフィールドに本学人文社会科学部や農林海洋科学部等の教員及び学生と行政機関や住民との交流が行われてきました。また、本山町に設置した高知大学サテライトオフィスに本学教員が常駐し、世代を超えた地域づくりに取り組んでいます。受田学長からは、「まちなかの活性化、ウェルビーイングの向上、交流人口の増大を目標にしながら、本山町との自主的、持続的な活動に精一杯努力をしていきたい」と、澤田町長からは「大学が持つ知見を街づくりの取組や人材育成に活かしていただくとともに教職員や学生と共に持続可能な街づくりに取り組んでいきたい」とそれぞれ挨拶がありました。今回の連携協定の締結により、大学と本山町が連携した事業助成スキームを構築し、好循環資金と人の交流の仕組みづくりを行うことで、地域を活性化し相互に発展していくことを目指します。



調印式の様子(左/受田浩之学長 右/澤田和廣町長)

本学教員らの研究グループの成果が「Science」に掲載

自然科学系農学部門の足立真佐雄教授と海洋コア国際研究所の萩野恭子客員講師らの研究グループの成果が、科学学術誌「Science」に掲載され、同誌の表紙を飾りました。海産の単細胞微細藻類であるハプト藻 Braarudosphaera bigelowii (ビゲロイ)は、細胞内部に窒素固定細菌の構造(UCYN-A)を持つことが知られていました。しかし、ビゲロイは長年にわたり培養することができなかったことから、UCYN-Aは共生関係にあるのか、細胞内小器官として機能しているのか、詳細は不明でした。本研究では、高知県産の「ところてん」を原材料に開発された培地を使用し安定培養に世界で初めて成功した細胞を用いて、UCYN-Aの倍加・分裂は、ビゲロイにより制御されていること、ビゲロイにより生産されたタンパク質が、UCYN-Aに輸送されることを明らかにしました。以上の結果から、UCYN-Aは、ビゲロイの細胞内部においてオルガネラ化(細胞内小器官化)が進行した初期の「ニトロプラスト」の状態であることが確認されました。今回の成果は、生物進化や窒素固定に関する基礎研究への利用が期待されます。



Reprinted with permission from T.H. Coale et al., Science 384 (2024)

陸上競技部員が中四国インカレで健闘

本学陸上部員が、2024年5月10日(金)～12日(日)に行われた第78回中国四国学生陸上競技対校選手権大会(島根県出雲市)において以下の成績を収めました。

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1位.....教育学部4年
女子三段跳 田村 萌奈 | 7位.....農林海洋科学部3年
女子4×100mR 清水 美郷 |
| 2位.....人文社会科学部4年
女子400m 笠原 里穂 |人文社会科学部4年
笠原 里穂 |
| 4位.....人文社会科学部2年
女子10000m競歩 杉山 月乃 |農林海洋科学部3年
安田 愛菜 |
| 6位.....人文社会科学部2年
女子400mH 石本 ゆら |教育学部1年
櫻木 結月 |
| 7位.....農林海洋科学部3年
女子やり投げ 渡邊 穂夏 | 8位.....農林海洋科学部3年
女子100mH 清水 美郷 |



中央/田村 萌奈 選手(教育学部4年) 右端/笠原 里穂 選手(人文社会科学部4年)

入試・イベント情報

2025年度入試

選 抜	学 部					
	人文 社会科	教育	理工	医	農林 海洋科	地域 協働
総合型選抜Ⅰ	●	—	●	●	●	●
総合型選抜Ⅱ	—	—	—	—	●	—
学校推薦型選抜Ⅰ	●	●	●	●	●	●
学校推薦型選抜Ⅱ	●	●	●	●	●	—
国際バカロレア選抜	●	●	●	●	●	—
社会人選抜	—	—	●	—	—	—
一般選抜	●	●	●	●	●	●

※選抜方法は学科・コースにより異なります。詳細は選抜要項・募集要項をご確認ください。

入試に関するイベント・最新情報は受験生サイトをチェック



動画で見る高知大学

「YouTube」・「夢ナビ」で学科紹介や講義動画を視聴できます。



高知大学のラジオコーナー

高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報をFM高知でお届けしています。ラジオ聴取用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、スマホやパソコンで全国各地でも視聴していただけます。



放送中

「Monthly 高知大学」 FM 高知 81.6MHz 毎月第4金曜日/10時15分～

黒潮祭 11月2日(土)・3日(日)

朝倉キャンパス(高知市曙町二丁目5番1号)

高知大学の大学祭「黒潮祭」を開催します。学生サークル等による模擬店や特別ゲストによるステージ、学生と一般よさこいチームによる演舞など様々な企画を行います!!その他黒潮祭に関する情報は、黒潮祭実行委員会のSNSにて随時更新していきます。ぜひお気軽にご来場ください!



出店の様子

●主な内容/各種展示/学生や近隣の飲食店による出店/学生のライブやダンスなどフリーステージ/特別ゲストによるステージ/学生・一般のチームによるよさこい演舞

南風祭 10月12日(土)・13日(日)

岡豊キャンパス(南国市岡豊町小蓮)

医学部の学園祭「南風祭(みなかぜさい)」を開催します。体育館・食堂・図書館前広場を使い、医学部生によるお笑い大会・軽音楽ステージなどを行います。各クラスによる模擬店も復活する予定です。



ライブの様子

●主な内容/軽音楽ステージ/お笑いクラス対抗戦/図書館前広場にてキッチンカー「名店街」

物部キャンパス一日公開 11月2日(土) 9:00～15:00

物部キャンパス(南国市物部乙200)

高知大学では、今年度も「物部キャンパス一日公開」を開催します。キャンパス特産の野菜や花などの販売など、楽しい催しも企画していますので、ご家族・ご友人をお誘いあわせの上、ぜひお気軽にご来場ください。



のこぎり体験

●主な内容/教育研究活動の紹介(展示・実験・体験)/海洋コア国際研究所公開(世界三大施設の一つ)/農作物・花卉の展示即売会/外国人留学生お国料理・学生自慢料理出店ほか

「高知大学マガジンSRU」アンケートご協力をお願い

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で3名の方に高知大学オリジナルグッズをプレゼントします。(当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます)



こちらを
チェック

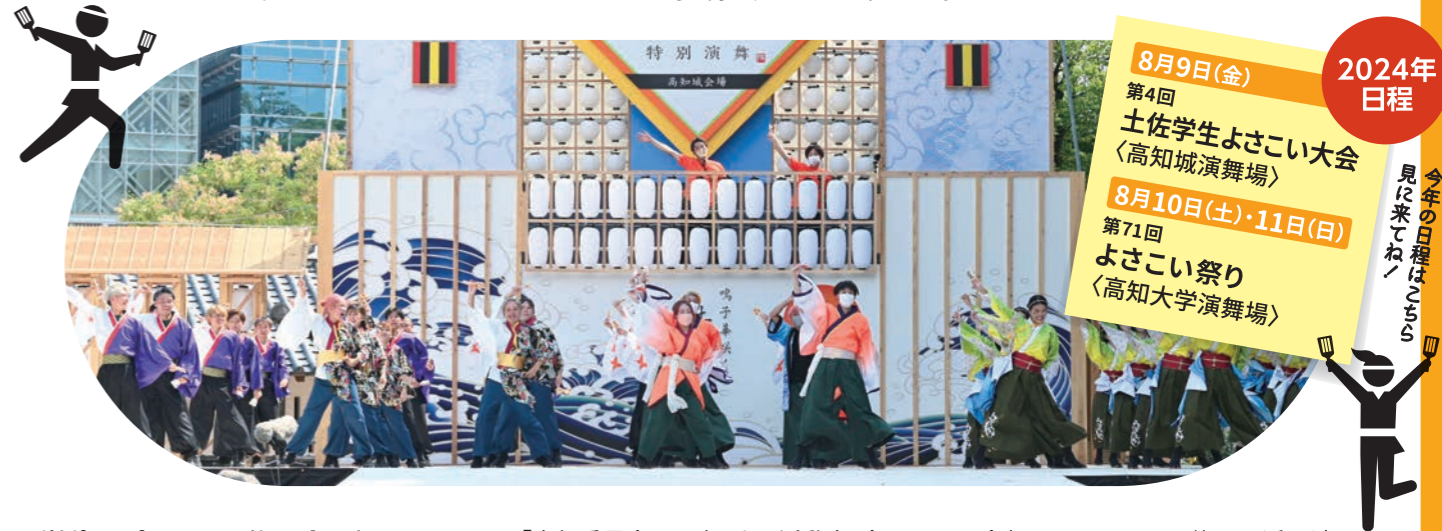
回答期限: 令和6年10月31日

ピックアップ 高知大学生

Vol.4

荒々しくもエネルギーギッシュ! 全国唯一「学生よさこい」の場をつくる

土佐学生よさこい大会実行委員会 小川 優太(おがわ ゆうた)



2024年
日程
8月9日(金)
第4回
土佐学生よさこい大会
〈高知城演舞場〉
8月10日(土)・11日(日)
第71回
よさこい祭り
〈高知大学演舞場〉

今年日程は25日
見に来てね!

学生の力で作り上げる 唯一無二のよさこい大会

高知で誕生し、いま全国各地で催されるようになったよさこい祭り。高知大学でも多くの学生が祭りに参加しています。そんな中、学生チームが魅力を発揮できるステージを作ろうと、裏方として奮闘している高知大生らがいます。

「土佐学生よさこい大会、通称『とさよさ』は全国で唯一の学生だけで行うよさこい大会。私たちは実行委員会としてとさよさを主催しています。「学生よさこい」という新たなフィールドを作って、発表の場を提供することが目的です」と大会の実行委員長である小川優太さん(地域協働学部4年)は話します。

2019年に第1回が開かれたとさよさ。以来、毎年よさこい祭り本番に先駆け、前日の8月9日に高知城演舞場で行われてきました。(コロナ禍による中止があり、大会は今年4回目を迎えます。)

ひと言で大会の主催といっても、活動は多岐に渡ります。大会の企画立案から始



高知城演舞場

「実行委員会は現在9人で活動中。今は全員高知大生ですが、県内外いずれの学生も参加できます。私自身は、入学式で当時実行委員長だった人の話を聞いたことが委員会に入ったきっかけです。踊ったことにはないのですが、毎年のようによさこいを見て素晴らしいは知っていたので、裏方×よさこいで何かできないかと思っていました。委員の中には踊った経験から運営に興味があり、参加したという人もいます」と、メンバーがそれぞれ思いの理由で参加していると話します。



自分たちの思いを形にできる 運営だからこそ醍醐味がある

実行委員会のもう一つの役割が、他大学の学生よさこい祭り実行団体とのつながりを構築することです。「北海道のYOSAKOIソーランなど、各地の祭りで学生団体が運営に関わっています。彼らにアプローチし、運営も相互協力しています。高知の中だけの視座にとどまらず、良いところを吸収する。また、高知の本場ならではの良さを伝えることが重要だと考えるからです」と小川さん。

今年のとさよさの開催も間近に迫り、実行委員会の活動は佳境を迎えます。

「自分たちの考えたものが形になり、参加者から褒めの言葉をいただくことは、すごくやりがいがあり、運営する醍醐味でもあります。学生よさこいの荒々しくもエネルギーギッシュな魅力が伝わるよう、委員会のみんで協力して大会を作り上げるので、ぜひ学生よさこいのパワーを多くの人に感じてほしいと思います」と、大会に向けた意気込みを語りました。

小川さんは、よさこい祭り高知大学演舞場の委員会にも所属。この夏、学生の力強いよさこいが高知を一層熱くするかもしれません。



第3回土佐学生よさこい大会の様子。台風接近のため、会場を高知城演舞場から高知県立県民文化ホールに変更して開催されました。

土佐学生よさこい大会
実行委員会のHPとSNSはこちら



土佐学生よさこい大会
実行委員会 委員長
地域協働学部4年
小川 優太さん



2022年～2024年 高知大学は創立75周年記念事業を実施しています

2022年

旧制高知高等学校開設 **100**周年

- 5月14日 高知大学創立75周年記念事業キックオフイベント
- 10月 1日 第1回 記念シンポジウム in 須崎市
「LXで切り拓く持続可能な地域づくりへの挑戦」
- 10月30日 学生支援チャリティーイベント GIVING CAMPAIGN 2022



高知新聞で
毎月第4火曜日に
連載中！見てね！

高知新聞特集企画
「地域を支える変える高知大」

本事業への
ご寄附はこちらから



2023年

高知大学と高知医科大学の統合 **20**周年

- 1月21日 第12回ホームカミングデー (オンライン・ライブ配信)
第2回 記念シンポジウム
「「共感」から生まれるコミュニティで人は幸せになれる～
創立75周年を契機に「共感」で溢れる高知大学に～」
- 3月18日 第3回 記念シンポジウム in 梶原町「持続可能な地域づくりは土佐の山間より!」
- 6月19日 GIVING CAMPAIGN 2023 Spring
- 7月15日 第4回 記念シンポジウム in 高知市
「絆の躍動!よさこいらんまん2023～なぜ、高知大学は演舞場を開設するのか～?」
- 8月10日・11日 よさこい祭り 高知大学演舞場を開設
- 10月 7日 第5回 記念シンポジウム in 四万十町
「最後の清流四万十川と共に豊かな暮らしを続けるために」
- 10月30日 GIVING CAMPAIGN 2023 Autumn
- 11月 3日 高知大学校友会 設立総会
- 11月 4日 第13回ホームカミングデー (朝倉キャンパス)
第6回記念シンポジウム「俳句のある人生」夏井いつき氏
- 11月25日 高知大学と高知医科大学の統合20周年記念式典

高知新聞で
毎月第4火曜日に
連載中！見てね！

高知新聞特集企画
「地域を支える変える高知大」



2024年

高知大学創立 **75**周年 南湊寮開寮 **100**周年 陶冶学舎開設 **150**周年

- 3月24日 第7回記念シンポジウム in 須崎市
「「海のまち須崎」未来への挑戦～「逆参勤交代」×「釣りバカ」から生まれる持続可能な地域づくり～」

第71回よさこい祭り 高知大学演舞場

8月10日(土)、11日(日)
朝倉キャンパス



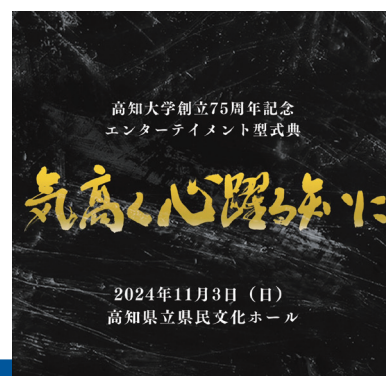
研究成果報告シンポジウム 未来研究ミュージアム ～冒険の扉をひらこう～

9月28日(土)
高知市文化プラザかるぼーと



第14回高知大学ホームカミ Homecoming Days

11月2日(土)、3日(日)
朝倉キャンパス・物部キャンパス



11月3日(日・祝) 高知大学創立75周年記念式典「**気高く心躍る知に**」 会場／高知県立県民文化ホール

校友会に入会してつながっちゃおなかね!?

高知大学校友会は、卒業生はもちろんのこと、高知大学とご縁のある方ならだれでも入会いただけるコミュニティです。気軽にご入会・お申し込みください。

会費無料

入会受付中!



入会いただくと、
詳細情報を随時
お知らせいたします。

